

2012 年度デジタルプラクティスアワード報告

デジタルプラクティス (DP) の目的は、ICT 実務の現場での実践やそこから生み出される知見を広く社会全体で公開共有し再利用することです。この目的に最もかなう論文を1年に1編選び表彰しています。2012 年度デジタルプラクティスアワードは以下のように決まりましたので報告します。

記

受賞者：吉田信明¹，和田晴太郎²，伊藤英之²，澤田砂織¹，山内英之¹，長谷川淳一²，
中村行宏¹ (1 京都高度技術研究所，2 京都市動物園)

受賞論文：京都市動物園での情報通信技術活用への取り組み～動物園に適したインフラと動物コンテンツの活用～ (Vol.3 No.4 (通巻第 12 号)，pp.305-312)

論文概要 (Web ページ http://www.ipsj.or.jp/dp/award/dp_award.html から転載)：我々は、京都市動物園における情報通信技術活用への取り組みとして、無線を中心とした園内メッシュネットワークと、飼育動物の習性や利用形態に合わせたネットワークカメラの整備を行い、動物園で映像等のコンテンツを活用するためのインフラを実現した。あわせて、来園者が動物や自然をより理解するためのスマートフォンアプリケーションの整備も行った。インフラで収集した映像は、動物園内外でのライブ配信や、飼育動物の観察・記録、アプリケーションのコンテンツなどに継続的に活用されている。本論文では、これらのインフラやアプリケーションの概要と活用状況について述べる。

表彰式：ソフトウェアジャパン 2013 懇親会 (一橋大学 一橋講堂会議室・学術総合センター NII，2013 年 2 月 15 日)にて賞状および記念品を贈呈した (写真)。



左から平田委員長，中村行宏氏，吉田信明氏，山内英之氏

選考方法：選考委員会であるデジタルプラクティス編集委員会委員は 2012 年 1 月～12 月に発行された DP に掲載された全論文 (招待論文，投稿論文含めて全 34 編) の中からベストプラクティスが十分に記述されていること，論文として内容・構成が優れていることという観点から，特に優秀と認められる論文を選定した (デジタルプラクティスアワードに関する Web ページ http://www.ipsj.or.jp/dp/award/dp_award.html をご覧ください)。

以上